

校長及び教員としての資質の向上に関する指標

(1) 教員としての資質の向上に関する指標

ライフステージ	教職着任時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ
		初任～教職経験5年次 基礎形成期	教職経験6年次～10年次 伸長期	教職経験11年次～20年次 充実期	教職経験21年次以降 発展期
資質・能力 にかかる項目		実践力を磨き、基礎・基盤を固める。	知識や経験に基づいた実践力を高める。	多様な知識と経験に基づいた実践を展開するとともに、若手教職員の指導を行い、学校の中核的役割を担う。	高い専門性と豊かな経験を持ち、高度な実践を展開するとともに、指導力を発揮し、学校づくりや教育活動をリードする。
				主幹教諭 関係主任と連携して管理職を補佐し、学校の管理運営に関する事項等を行う。	指導教諭 高い専門性に基づき、教員の授業力向上のための指導・助言を行う。
教職に必要 な素養	教育的愛情 使命感 責任感	○児童生徒から学び、共に成長しようとする姿勢を身につけている。	○児童生徒一人ひとりの力を最大限に引き出すことができる。 ○児童生徒の主体的な学びを支援する役割を果たすことができる。	○児童生徒一人ひとりの力を最大限に引き出し、主体的な学びを支援する役割を果たすとともに、児童生徒が自らをかけたがえのない存在として感じられるよう、学校全体での教育活動を推進することができる。	
	倫理観 コンプライアンス	○教育公務員としての職務を遂行する上で必要な教育に関する基礎的な法規や理論を理解している。 ○社会の一員としての自覚と責任を持ち、自ら考え判断し、主体的に行動する力を身につけている。	○教育公務員としての自覚と規範意識を持ち、法令等の遵守を徹底できる。 ○自らの行動が学校教育に寄せる県民の信頼に与える影響を理解し、自らを厳しく律することができる。	○法令等を遵守し、他の教職員の規範となるとともに、学校全体で不祥事根絶及びコンプライアンス意識の確立に向けて取り組むことができる。	
	社会性 コミュニケーション 力	○他者と協調し、相手を思いやる豊かな人間性を身につけている。 ○互いの人権を尊重し、多様性を認め合う確かな人権感覚を身につけている。	○豊かな人間性と確かな人権感覚を発揮し、児童生徒や保護者、地域等との信頼関係を構築することができる。	○教職員間の円滑なコミュニケーションを促進し、多様な意見を尊重しながら組織的に取り組むとともに、人材育成の重要性をふまえて自らの経験・スキルを率先して若手教職員に伝えることができる。 ○豊かな人間性と確かな人権感覚を発揮し、児童生徒や保護者、地域等とともに連携・協力しながら課題に対処することができる。	
	学び続ける意欲 探究心	○自らの強み・弱みを理解しようとするとともに、自己研鑽に励んでいる。	○自らの強み・弱みをふまえ、今後伸ばすべき能力、学校で果たすべき役割などを理解し、自己の資質・能力の向上に向けて主体的な学びをマネジメントすることができる。 ○学校教育を取り巻く環境や社会の変化に対応できるよう、新しい知識・技能を学び続けることができる。	○自己の置かれた状況に照らして、適切な現状把握と目標設定を行い、自らの実践を検証し改善し続けることができる。 ○学校教育を取り巻く環境や社会の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ、自律的かつ継続的に新しい知識や技能を学び続けることができる。	
	学校運営への参画	○組織の一員として、組織的に対応することの大切さを理解している。	○組織の一員としての自覚を持ち、報告・連絡・相談を確実にするとともに、他の教職員からの理解、協力を得ながら、自らの職務を遂行することができる。 ○学校教育目標を理解して、学級経営や教科指導を実践するとともに、学校マネジメントの意義を理解し、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、組織の中で自己の役割を果たすことができる。	○児童生徒の指導上の問題を一人で抱え込まないよう組織で対応したり、教職員間の報告・連絡・相談が円滑に行われるような職場の人間関係を構築したりして、同僚性を高めることができる。 ○学校マネジメント、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、学校教育目標の達成、学校運営上の課題解決に向けて、中・長期的な対応策を講じることができる。	【主幹教諭】 ○校長の経営方針をふまえて、学校運営が組織的・協働的に行われるよう、分掌間や学年間等、学校の総合的な調整を図ることができる。
	危機管理	○学校安全に関わる基礎的な知識を身につけているとともに、身の回りの危険を察知し、回避することができる。	○学校事故防止と安全対策等のマニュアルを理解し、教室環境や校内の安全点検を日常的に行うとともに、児童生徒の行動の観察等を行い、危機の未然防止に努めることができる。 ○危機管理に係る組織的な対応において、自己の役割を的確に果たすことができる。	○危機を予測した未然防止の取組と、危機の早期発見、早期対応に努め、学校全体の安全・防災について中心的な役割を担うことができる。 ○事故の再発防止に向け、必要な改善取組を推進できる。	
学習指導	授業計画	○学習指導要領に示された教科等の目標及び内容並びに児童生徒の実態に即した授業構想の重要性を理解している。	○児童生徒の実態をふまえて、育成を目指す資質・能力を明確にした授業を計画できる。 ○授業のねらいをふまえて教材研究を行うことができる。	○学校の重点課題及び児童生徒の実態や習熟度に応じた授業を計画できる。 ○教科会や学年会で教材研究を行う時間を確保するとともに、自らの専門性を生かして若手教員に指導・助言を適切に行うことができる。	○全教育課程をとらえ、他教科等の学習内容や系統性等をふまえて授業を計画できる。 ○自らの専門性や経験を生かして他の教員に適切な指導・助言を行うとともに、学校全体の授業づくりの質を高めることができる。
	授業実践	○発問、板書、教材・教具の活用等、基本的な指導技術を身につけている。 ○授業計画に沿って授業を展開できる。	○個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、多様な授業形態を取り入れる等の工夫をすることができる。 ○指導と評価の一体化に基づいて授業を実践することができる。	○指導方法や指導形態等を工夫し、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びを充実させることで児童生徒の学力向上につなげることができる。	○高い専門性を身につけ、創意工夫を凝らした授業を実践するとともに、児童生徒の学習評価を適切に行うことができる。 ○若手教員の指導上の課題を捉え、自らの経験を生かして授業力向上に係る指導・助言を行うことができる。
	授業改善	○主体的・対話的で深い学びを実現するため授業改善の必要性を理解している。	○評価規準に基づく評価を行い、一人ひとりの学習状況及び自己の授業の課題を把握することができる。 ○他の教員の良いところを取り入れて、授業改善を図ることができる。	○評価規準に基づく評価を行い、一人ひとりの学習状況及び自己の授業の課題を把握し、省察をもとにした授業改善を図ることができる。	○学習状況を多面的に評価して課題を把握し、実践的指導力の向上に努めることができる。 【指導教諭】 ○自校における校内研修会の企画・運営、指導・助言や指導力の向上に取り組む、研究授業等のコーディネーターとしての役割を担うことができる。

ライフステージ	教職着任時	第1ステージ	第2ステージ	第3ステージ	第4ステージ	
		初任～教職経験5年次	教職経験6年次～10年次	教職経験11年次～20年次	教職経験21年次以降	
		基礎形成期	伸長期	充実期	発展期	
		教職に就く者として求められる基礎的な知識や技能を身につけている。	実践力を磨き、基礎・基盤を固める。	知識や経験に基づいた実践力を高める。	多様な知識と経験に基づいた実践を展開するとともに、若手教職員の指導を行い、学校の中核的役割を担う。	高い専門性と豊かな経験を持ち、高度な実践を展開するとともに、指導力を発揮し、学校づくりや教育活動をリードする。
資質・能力にかかる項目		主幹教諭				
		関係主任と連携して管理職を補佐し、学校の管理運営に関する事項等を行う。				
		指導教諭				
		高い専門性に基づき、教員の授業力向上のための指導・助言を行う。				
生徒指導	児童生徒理解	○児童生徒の発達段階や個性・特性、一人ひとりの生活背景を理解することの重要性を理解している。	○児童生徒一人ひとりの実態や生活背景を理解し、受容的・共感的な態度で児童生徒に接し、信頼関係を築くことができる。	○児童生徒一人ひとりの理解に基づく信頼関係づくりを進めながら、保護者と連携することができる。	○学校全体の児童生徒の状況や課題を多面的に把握し、教職員相互の理解を促進するとともに、保護者、関係機関と連携を図ることができる。	○学校全体の児童生徒の状況や課題を多面的に把握し、保護者、関係機関と連携を図りながら、組織的・計画的に児童生徒の成長を促している。
	生徒指導 いじめへの対応	○実態に即して個に応じた指導や集団への指導の必要性を理解している。 ○いじめの防止、早期発見の必要性を理解している。	○日常的に児童生徒の生活状況を把握するとともに、児童生徒の発するサインを見逃すことなく、問題行動等を早期に発見し、他の教職員に報告・連絡・相談しながら迅速に対応することができる。 ○いじめの防止や早期発見のために、児童生徒の発するサインを察知し、適切に対応することができる。また、早期解決に向けて、管理職の指示のもと、他の教職員と連携・協力しながら組織的な対応に努めることができる。	○児童生徒一人ひとりの理解に基づく信頼関係づくりを進めながら、保護者と連携することができる。	○児童生徒の生活状況や心情を理解し、問題行動等の背景・原因を的確に把握して必要な指導を行うことができる。また、生徒指導上の問題解決に向け具体的な方策を立て、組織的・系統的に取り組むことができる。 ○いじめの防止や早期発見のために、児童生徒の行動やわずかな変化を察知し、適切に対応することができる。また、早期解決に向けて、管理職をはじめ、保護者、関係機関と連携を図り、組織的な取組を推進することができる。	○児童生徒の生活状況や心情を理解し、問題行動等の背景・原因を的確に把握して必要な指導を行うことができる。また、生徒指導上の問題解決に向け具体的な方策を立て、組織的・系統的に取り組むことができる。 ○いじめの防止や早期発見のために、児童生徒の行動やわずかな変化を察知し、適切に対応することができる。また、早期解決に向けて、管理職をはじめ、保護者、関係機関と連携を図り、組織的な取組を推進することができる。
	キャリア教育	○社会の動向やニーズに関心をもち、キャリア教育の重要性を理解している。	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身につける学習を展開することができる。	○児童生徒一人ひとりの理解に基づく信頼関係づくりを進めながら、保護者と連携することができる。	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身につけるための指導体制の整備を行うことができる。	○児童生徒が学ぶことと将来のつながりを見通し、社会的・職業的に自立する力を身につけるために、指導体制や実践を支える運営体制の整備を行うことができる。
特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応	特別支援教育	○特別な支援を必要とする児童生徒への指導・支援の考え方や児童生徒が互いを尊重し、共に学ぶことの大切さを理解している。	○特別な支援を必要とする児童生徒の特性や実態を把握し、適切な指導・支援を行うことができる。 ○他の教職員と連携・協力しながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。	○特別な支援を必要とする児童生徒の特性や実態を把握し、指導内容や指導方法を工夫して適切な指導・支援を行うことができる。 ○教職員間の共通理解を図りながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。	○特別な支援を必要とする児童生徒の特性や実態に応じた指導・支援を、地域や関係機関と連携し、適切に行うことができる。 ○教職員間の共通理解を深めながら、児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を実践することができる。	○特別な支援を必要とする児童生徒の自立と社会参加に向けて、保護者や地域と連携し、学校全体で取り組めるよう教職員に働きかけることができる。 ○児童生徒が共に学ぶという視点に立った教育活動を蓄積し、他の教職員への継承を進めることができる。
	外国人児童生徒教育	○日本語指導が必要な児童生徒に対する指導や保護者への支援の必要性を理解している。	○日本語指導が必要な児童生徒に対して、他の教職員と連携・協力しながら、適切な指導・支援を行うことができる。	○日本語指導が必要な児童生徒に対して、地域や関係機関と連携し、適切な指導・支援を行うとともに、校内の指導・支援体制づくりを推進することができる。	○日本語指導が必要な児童生徒に対して、地域や関係機関と連携し、適切な指導・支援を行うとともに、校内の指導・支援体制づくりを推進することができる。	
	不登校児童生徒への支援	○児童生徒が安心して意欲的に学ぶことができる学級づくりや不登校の初期対応の必要性を理解している。	○児童生徒の居場所づくりや仲間づくりに取り組むとともに、他の教職員に報告・相談しながら不登校支援を行うことができる。	○児童生徒の居場所づくりや仲間づくりに取り組むとともに、他の教職員と連携・協力しながら、子どもや保護者の気持ちに寄り添った不登校支援を行うことができる。	○保護者や関係機関と連携しながら、個々の状況に応じた支援を組織的・計画的に進めることができる。	○保護者や関係機関と連携しながら、他の教職員に対して適切な指導・助言を行い、組織的な対応を推進することができる。
教育課題への対応力	ICTや情報・教育データの利活用	○学校におけるICTの活用の意義を理解している。 ○情報セキュリティの基礎的な知識を身につけている。	○児童生徒にどのような力をつけるのかを考え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて重要なツールの一つとしてICTを活用することができる。 ○児童生徒の発達段階や実態に応じて、デジタル・シティズンシップの考え方にに基づき、情報モラルや情報セキュリティを含めた情報活用能力を育むための学習を行うことができる。	○児童生徒の学習に関するデータ（スタディ・ログ等）や生活に関するデータを把握し、個に応じた指導・支援を行うことができる。 ○児童生徒の人権を尊重し、個人情報やデータの扱い方を十分に理解して取り扱うことができる。また、インターネット上のいじめ等の未然防止や指導方法について研鑽を深めることができる。	○学校内に蓄積されている様々なデータを集約、分析するとともに、その結果を他の教職員と共有し、学校全体の課題解決に向けた取組を推進することができる。 ○教職員が情報セキュリティを確保するためのルールを提案する等、積極的に改善を図ることができる。	
	グローバル教育	○豊かな国際感覚を持つことや、郷土を愛することの大切さを理解している。 ○多文化共生に係る学習の大切さを理解している。	○豊かな国際感覚と郷土を愛する心を身につける学習を展開することができる。 ○多文化共生への理解を深める教育活動を実践することができる。	○地域や関係機関と連携して、豊かな国際感覚と郷土を愛する心を身につける学習を展開し、指導方法について他の教職員に適切な指導・助言を行うことができる。 ○多文化共生に係る学校全体の取組において、中心的な役割を果たすことができる。		
	人権教育	○差別を解消するための責務を自覚し、人権尊重の理念や人権教育の意義について理解している。	○三重県人権教育基本方針に基づき、人権教育カリキュラムに沿って人権尊重の意識と実践力を育む教育を児童生徒や地域の実態に応じて展開することができる。	○校内や家庭、地域との連携による推進体制の中核を担い、教育活動全体を通じて人権教育が行われるよう、人権教育カリキュラムを適切に運用し、組織的な取組を積極的に推進することができる。		
	防災教育	○防災教育の重要性を理解している。	○三重県の地理的特性をふまえた防災・減災に関する理解を深め、児童生徒が自らの命を守るために必要な知識・技能を身につけさせる指導を行うことができる。	○児童生徒が自らの命を守るために必要な知識・技能を身につけ、地域の支援者として行動できるよう、家庭や地域と連携した防災・減災に関する取組を推進することができる。		